

MICE周辺エリアのまちづくりに関する住民説明会の開催について

大型MICE施設の建設に伴い、魅力的な周辺エリアの形成や賑わい創出を促進するため、宿泊・商業施設等の受入環境整備に向けたデザインコンセプトやまちづくりの方向性について、住民説明会を開催します。



日時 3月13日(火)19:00～ 場所 西原町中央公民館 主催 西原町・与那原町・沖縄県

【お問い合わせ】 西原町 建設部 都市整備課 ☎ 098-945-4496
 沖縄県 文化観光スポーツ部 観光整備課 ☎ 098-866-2077

町立小中学校における2学期制の継続を決定

学校完全週5日制や「生きる力」をキーワードにした学習指導要領の改訂を背景に、本町では平成19年4月1日から2学期制を導入して、平成28年度で10年目の節目を迎えました。そこで、学期制検討委員会を設置し、2学期制の検証とともに今後の学期制のあり方について検討していただきました。その検討結果を踏まえ、教育委員会では引き続き町立小中学校の2学期制を施行することを決定いたしました。

2学期制を継続する主な理由として、①導入から10年を経過して2学期制が定着し、児童生徒の学力も年々着実に向上し学力面や生活環境面で良い効果が出ていること、②2学期制により評価が3回から2回になったことで、3学期制に比べるとゆとりを持った教育活動が行えていること、③社会情勢においても2学期制を変更するような大きな変化はないことなどが挙げられます。特に小学校の学力面において、県内でもトップクラスで全国平均も上回る目覚ましい成果が出ています。

しかし「2学期制だと1つの学期が長いので、3学期制と比較して、テスト範囲が広くなり受験に不利になるのではないかな」などの懸念から3学期制への変更を望む保護者もいます。保護者が懸念をもつ要因として、2学期制についての説明が充分ではなかったことが考えられますので、今後も丁寧な説明を行い、理解を求めていきたいと考えております。

また、教育委員会としましては、今後の教育改革、社会情勢の変化等を考慮しながら、必要に応じて学期制のあり方について検討していく必要があると考えております。

教育委員会

就活のための講座を開催中!

受講料 無料

◆スキルアップ講座《14:00～15:30》※事前申込(電話)が必要です。

3月	6日(火)	メイク&コーディネートの基本～第一印象が変わる!～
	12日(月)	中高年者向け 就職活動の進め方 ～就職決定までのプロセス～
	15日(木)	ビジネスマナー 基本のき ～こんな時どうすればいいの?～
	19日(月)	応募書類のポイント～応募書類のあれこれ～

【対象】西原町民
 【定員】講座・セミナー 各10名
 【場所】西原町役場内 会議室

◆就職セミナー《14:00～16:00》※事前申込(電話)が必要です。

3月8日(木) 就職セミナー(就職活動の基礎、応募書類の書き方、面接対策) + 個別相談

※ハローワーク失業認定申告書の就職活動実績の対象になります。

【お問い合わせ】 西原町雇用サポートセンター(産業観光課内) ☎ 945-4540

上原町営住宅 入居者募集



1. 応募概要

場所	戸数	家賃	間取り	受付期間	抽選会	当選者 入居説明会	入居 予定日
上原 2-32-1	一 戸	27,100円 (所得に応じて変動) ※共益費4,000円	3LDK	3月5日(月)～3月16日(金) 8:30～17:15 (12:00～13:00、土、日、祝を除く)	3月20日 (火)	3月30日 (金)	5月1日 (火)

2. 申込資格(抜粋)

- (1)西原町に現に住所を有する者であること。
- (2)現に同居し、又は同居しようとする親族があること。(婚姻の予約者等を含む)
- (3)収入月額(同居親族に収入がある場合は合算した収入の月額)が158,000円以下であること。

申込資格や申込方法の詳細は、西原町町営住宅入居者募集のしおりをお読みください。しおりは、都市整備課または、西原町ホームページ(トップページ→新着情報)で確認できます。



【お問い合わせ】 建設部 都市整備課 建築係 ☎ 945-4496

三月三日

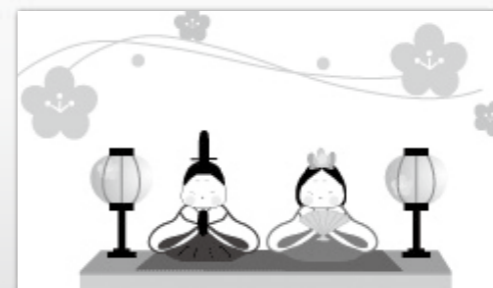
三月三日。新暦では女の子の健やかな成長を願う「雛祭り」です。では、旧暦の三月三日の行事もご存知でしょうか。沖縄では、不浄を清め健康を祈願する「三月三日」または「浜下り」と呼ばれる年中行事が行われます。その日は、重箱にご馳走を詰め祖先に供え、浜辺に下りそのご馳走を食べながら潮干狩りなどをして過ごします。

西原でも、小那覇、内間、我謝、小波津などの下地区の大半の集落では、重箱を持つて浜へ出て、チンボーラー(小さな巻貝)などの貝を採っていました。また、幸地、棚原、上原などの海岸から遠い集落では、実際に浜に下りることがありませんでしたが、宴を設けたり、仏壇に供え物をしたりしてこの日を祝っていました。

また、口伝によれば、戦前の三月三日には、尚円王にゆかりのある「御衣脱瀬」に首里から尚家一族が訪れるのが慣例になっていたようです。この干瀬には、臣下らに王位に就くよう懇願された金丸が着物



御衣脱瀬に設置された香炉



雛祭り(イメージ)

を脱ぎ、童衣(王子の衣装)を着て首里に上ったという伝説が残っていますが、残念ながら、この干瀬のほとんどは南西石油精製工場建設の際に埋め立てられてしまい、当時の姿を見ることはできません。

今回は「三月三日」という日を切り口として、多角的な視点で見てきた結果、現代の雛祭りから尚円王ゆかりの御衣脱瀬までの話題が展開されました。このような歴史文化をはじめ、物事を様々な方向から眺めてみると、これまで思いもよらなかったような面白いことに気付けるかもしれません。さあ、たくさんのお目もつけていろいろなものを見てみましょう。

お問い合わせ 西原町教育部生涯学習課 文化財係 ☎ 944-4998